

旧版・訳者まえがき

近時、靈魂の存在が認められつつある。喜ばしいことである。それは人間生活とは不可分の関係にあるのだから、靈魂を知ることが、個人の幸福、社会の改善、人類の平和のために、未来は明るいという意味においてである。ただし、これまで多く語られてきたのは、死んだ人間の靈魂についてである。勿論、これが人間の関心の重大な部分であるから当然のことである。しかし、現実に存在し、人霊とともに人間生活に重大なかかわりをもっているものに、自然霊というのがある。つまり、一度も肉体をとったことがない、初めから靈魂のままの幽的存在である。大別すると、高級な自然霊はいわゆる天使（エンゼル）、下位の自然霊は妖精（フェアリー）と呼ばれている。

実は、これらが人間生活と不離の関係にあり、しかも、人間の生命・守護・運命、また自然現象と深くかかわっていることが、心霊研究家の間にも意外と知られて

いない。つまり、人霊だけの知識や研究だけでは、人間の本当のことは分からないということである。

優れた霊能者グレース・クック女史を通じて、神秘の靈智に通じる高級靈ホワイト・イーグルからの、自然靈に関する貴重な通信が本書である。おそらく、読者はいろいろな妖精がどんなに人間の身近にいるかを知って驚かれるだろう。天使、つまり神々とも称すべき靈的存在が、人間のそばに常にあって、出生から死まで監視・守護・指導している事実を知って、目を見張られるだろう。

また、人間の心情が自然靈に、直接微妙に反応する事実に気付かれるなら、未来の農法は化学的なものから、自然靈と協同した靈的自然農法に変化すべきことを見て取られるだろう。あるいは、気象、地震、噴火、洪水、嵐、地殻変動にわたる一切の自然現象を、将来、人間は天使等との調和において調整可能であることも推察されよう。つまり、ここには宇宙の神秘に参入する資格者である、天使に併行した進化系統にある人類の相貌が、あるいは読み取れるのではないかと筆者は思うのである。

日本で、自然霊を総体的に取り扱った著書はない。浅野和二郎氏が、「妖魅と妖精」「竜神」に関する研究などの小論を発表しているが、絶版になっている。外国には、コナン・ドイル『妖精来』、ジョフラー・ホドソン『天使来』などがあるが、その要旨の一部は浅野氏の小論の中に紹介されている。浅野氏は天使を竜神とみなし、竜神は日本の八百万やおよろずの神々に当たるとし、天狗や仙人は妖魅・妖精の一種であるとしている。筆者も竜神や天狗を見た体験よりして、先ず妥当なところと感じている。

『優雅な友』は、ホワイト・イーグルがすでにある程度の霊的知識をもった人々、なかんずく心靈治療に従事する人達を対象に、日常の心構えを説いたものである。この中で、繰り返し「キリスト」という言葉が出てくるが、これは二〇〇〇年前のイエスその人を指すのではなく、太陽神霊を意味している。それはまた人間にも内在している、つまり人間は太陽神霊の一部を内蔵する神の子である。ただし、まだ十分にそれを發揮していないが、その点、イエスはこれを十分に発現し得たキリスト人（神人）であった。われわれもこの神人を目指している。その発現の

方法を、ホワイト・イーグルは教えてくれている。心の静寂こそ、内在のキリストに近づく道である。心の静寂において得られるものが「愛」である。愛こそはキリスト神性原理、われわれ神の子の本性でもある。また、高級自然霊である天使らとつながる原理、妖精たちを引き寄せる原理。すなわち、人間がキリスト人として神となる原理、天使らと協調して地球の進化に協働する原理、妖精らを動かして自然現象に調和を与え、自らも自然の恵みを受け取る原理でもある。